

フィリピ：最初の訪問を超えて続く協力

使徒言行録とフィリピの信徒への手紙は、同じ共同体をどう照らしますか。

使徒言行録は、もてなし、搾取、投獄、思いがけない歓迎を通してフィリピの信徒を紹介します。フィリピの信徒への手紙は、贈り物、配慮、苦しみ、一致への呼びかけによって続く協力を示します。共同体の物語は、劇的な牢獄の出来事だけでは終わりません。

一つの町に暮らすさまざまな人

使徒言行録によれば、フィリピはローマの植民都市です。リディアは宣教者を迎え、奴隷の少女の主人たちは収入を失うことに反発し、長官たちは処罰を命じ、後には看守が知らせを受け入れます。それぞれ社会的立場が異なり、一つの回心物語にまとめられません。使徒言行録は奴隷の少女の後の運命も、家の一人ひとりの来歴も記していません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 16章11～40節

出典: acts

遠く離れても続く関係

パウロはフィリピの人々の協力と支援に感謝します。エパフロディトは贈り物を届けて重い病気となり、双方に心配が生まれます。この手紙はその関係とパウロの投獄から生まれました。投獄地は伝統的にはローマとされ、エフェソやカイサリアも提案されていますが、手紙自体は都市名を記しません。明確に描かれた地図でも、その不確かさを示す必要があります。

聖書の参照箇所: フィリピの信徒への手紙 1章3～14節・フィリピの信徒への手紙 2章25～30節・フィリピの信徒への手紙 4章10～20節

出典: letters, chronology

共同体で実践するキリストの謙遜

フィリピの信徒への手紙は、対抗意識と利己心を戒める中心にキリストの自己献身を置きます。テモテとエパフロディトは具体的な模範となり、エボディアとシンティケへの呼びかけは、一致を個人的な課題にします。したがって喜びは、病気、対立、不安と両立します。共同体は、見過ごされる奉仕を尊び、和解

を求め、物を分かち合うことで実践できます。苦しむ人に明るさを演じるよう要求する必要はありません。

聖書の参照箇所: フィリピの信徒への手紙 2章1～30節・フィリピの信徒への手紙 4章2～9節

出典: letters

出典

- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [chronology] Pauline Letters chronology: Acts, the letters, dated external anchors, and explicitly qualified reconstructions. <https://paulineletters.com/explore/timeline>

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/philippi>